

農業試験場

野菜研究室、果樹研究室、花き研究室

成果のポイント

- 極早生で、果肉が緻密で柔らかく極食味な青なし「おりひめ」を開発！
- うど栃木芳香 1 号、栃木芳香 2 号は、伏せ込み時期を遅くすると 3.3t/10a 生産でき、予冷庫を用いる早出し栽培法もあわせた軟化栽培技術を確立！

1 背景・ねらい

産地間競争が激化する中で、地域農業が安定的に維持され発展していくためには、ブランド力の向上や生産性向上の取り組みが不可欠であった。産地競争力を高め、ブランド力による多様な流通チャネルの拡大を図るために、オリジナル品種の開発や優良新品種の積極的な導入とその安定生産技術が求められていた。

そこで、オリジナル品種を核とした地域作物のブランド化を進め、産地活性化の強化を目指し、新品種の開発と安定生産技術開発を行った。

2 成果の概要**(1) 極早生なし品種の開発**

- ・ 「おりひめ」は、幸水より早く収穫できる極早生で、品質良好な品種を育種目標に開発し、平成 27 年 6 月に品種登録した。
- ・ 苗木をポットで 1 年間養成し、台木をヤマナシにすると生育が優れていた。着果数は 8 果/m²が適正で、青色被袋処理によりさび果発生を軽減できた。収穫は地色 3.0 から始め、3.0~4.0 で品質が良好であった。

(2) うど栃木芳香 1 号、栃木芳香 2 号の高品質安定生産技術の開発

- ・ 新品種の伏せ込み時期が収量、品質に及ぼす影響を検討した結果、伏せ込み時期が遅い方が多収となり、可販収量が 3.3t/10a と既存品種「紫」より多収になった。
- ・ また、予冷庫を用いた早出し技術では、5℃以下の積算処理時間を 600 時間（25 日間）で多収となった。
- ・ これらの結果から、うど新品種の高品質安定生産技術が開発できた。

3 成果の具体的データ

表1 おりひめの収穫期

	収穫盛 (月日)					
	2008	2009	2010	2011	2012	平均
おりひめ	8/12	8/10	8/19	8/22	8/20	8/16
なっしずく	8/20	8/18	8/29	8/29	8/27	8/24
八里	8/24	8/16	8/27	8/25	8/27	8/23
幸水	8/31	8/24	9/08	9/07	9/07	9/03



写真1 おりひめ果実

表2 おりひめの一果重

	果重 (g)					
	2008	2009	2010	2011	2012	平均
おりひめ	340	331	376	374	409	366
なっしずく	339	327	270	387	407	346
八里	402	375	332	353	433	379
幸水	381	408	392	411	453	409

H3年、交配：新水 × 筑水

H17年、なし栃木3号として特性調査

H27年、おりひめ、品種登録

図1 おりひめの育成経過

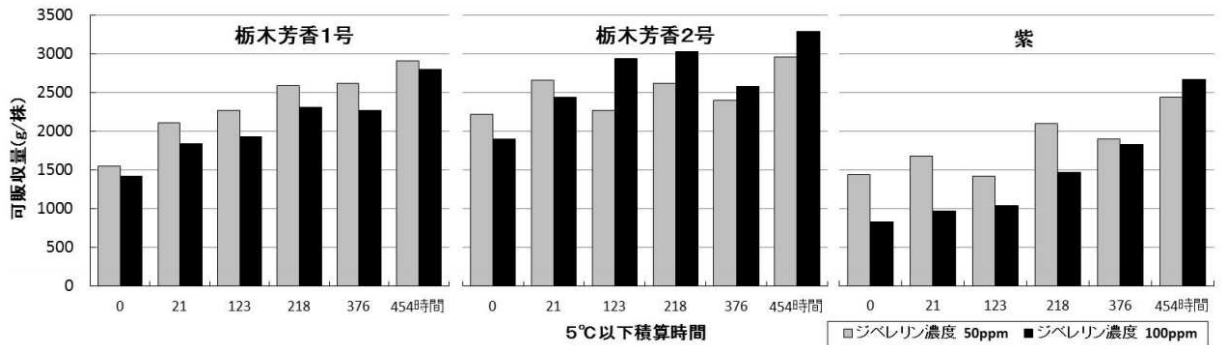


図2 うどの5°C以下積算時間とジベレリン処理が可販収量に及ぼす影響

注. 根株は3月23日に株間130cm、畝間70cmの密度で定植。
根株掘り取り後ジベレリン処理し、電熱線で18°Cに管理した室に伏せ込む。